



奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 30

ご挨拶

教授 加瀬 諭

奈良県立医科大学眼科に着任しまして、約半年が過ぎました。この半年間の診療、教育、研究について振り返りたいと存じます。診療面では、外来初診患者数は月により増減がありますが、概ねこれまでと類似した紹介患者数を維持しました。同窓会の先生方、近隣の眼科施設の先生方に、始めに厚く御礼申し上げます。手術の収益、病床稼働率は増加傾向を示しておりまして、コロナ禍前の水準に戻ってきております。特に本年4月からは眼腫瘍の手術も入院・外来手術で行っております。眼瞼・結膜の良性腫瘍の摘出術に加え、種々の眼窩腫瘍生検も毎月行っております。特に印象的な3手術は、眼瞼脂腺癌に対するHughes flapによる再建、巨大結膜扁平上皮癌に対する眼窩内容除去術、涙腺がんに対する骨切除併用眼窩腫瘍摘出術（深在性）です。骨切りでは電動ノコギリの準備が整わず、焦りましたが、医局員のサポートに加え医療機器メーカー、術場看護師との事前打ち合わせなど綿密な準備を進め、安全に手術を終えることができました。加えて、血管新生縁内障を伴った網膜血管増殖性腫瘍に対する経硝子体腫瘍切除術（endoresection）や、眼球のほぼ真裏の眼窩内発生したび慢性大細胞B細胞リンパ腫に対する緊急放射線照射の2症例、など前任の北海道大学眼科では経験しないような重症な症例をこの半年で経験できたのも、個人的には印象的な船出となりました。眼腫瘍に関しては主に辻中先生、新田先生を指導して参りました。先生方だけで眼瞼腫瘍などの腫瘍生検を始め、眼腫瘍の多くの患者さんの管理ができるようになっております。このような大きな手術を経験させていただいた、紹介元の先生に御礼申し上げますし、多くの医局員の刺激にもなったと存じます。加えて、眼瞼下垂症、眼瞼内反症手術などもルーチンに行っております。牽引性網膜剥離を伴う増殖糖尿病網膜症の手術では、Heads up surgeryによる膜処理の有用性も示してきました。上田先生、辻中先生、水澤先生、藤原先生を始め多くの医局員も網膜剥離や眼内炎、眼球破裂などの多数例の緊急手術をこなしており、併せて西先生は多くの斜視手術を行い、大変心強かったです。教育面では、この度大学院生の森本先生と共に、眼腫瘍の臨床病理学的研究、非感染性ぶどう膜炎の臨床研究を立ち上げております。辻中先生、西山先生によるips由来網膜色素上皮細胞の培養実験も継続していきます。学生教育においては、上述の3D硝子体手術を共に体験してもらい、眼科学の面白さを提示してきました。医局カンファレンスでは1週間で経験した難症例について、診断や治療について医局員皆で討論して参りました。来年は3名の新入局員を向かい入れることができ、大いに期待しております。研究面では、西先生、辻中先生、平井先生を中心には、様々な臨床研究、基礎研究に関与させていただきました。私の着任後に初の原著論文が掲載できたのも大きな喜びでした。平井先生、お疲れ様でした。その後も西先生、吉川先生、宮田先生からも秀逸な論文が掲載され、実りのある2025年となりました。大学院生の倉岡先生の糖尿病網膜症の凝固因子に関する解析も、来年成果が出ることを期待しております。しかし、大学病院はコロナ禍以降赤字の状態が続いており、診療で必要な眼科機器の購入、故障の修理が滞っているという懸念があります。加えて、現在は少数精銳で大学の医局を運営しております、関連病院に十分な人員を派遣できていないところも否めません。来年度以降、このような喫緊の課題に対して、可能な限り早めに解決できるよう継続して努めて参ります。今後ともご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願ひいたします。



講演会

第27回万葉フォーラム

2025年6月28日、グランドメルキュール奈良橿原で、万葉フォーラムが開催されました。自治医科大学 眼科学教室 学内准教授 伊野田悟先生に新生血管型加齢黄斑変性治療の新章—ガイドライン改訂と第2世代抗VEGF薬の可能性について講演していただきました。今後の加齢黄斑変性について診断や治療をわかりやすく講義して頂きました。同志社大学 生命医科学部医工学科教授 小泉範子先生に、基礎から臨床へ、角膜内皮疾患に対する新規治療法の開発について講演して頂きました。今までの研究を踏まえて、今後の臨床応用へつながる研究に関して伺うことができて大変勉強になりました。



第28回万葉フォーラム

2025年10月25日、グランドメルキュール奈良橿原で、万葉フォーラムが開催されました。

高知大学 眼科学教室 准教授 福田憲先生に眼アレルギー診療の新展開：点眼治療のその先へについて講演していただき、アレルギー診療の夢が広がるお話を伺うことができました。

順天堂大学医学部附属浦安病院 眼科 准教授 大内亜由美先生に糖尿病網膜症・黄斑浮腫診療のアップデートについて講演頂き、基礎研究から臨床までお話ししていただき、有意義な時間でした。



異動の御挨拶

中嶋先生が異動されたので挨拶をしていただきます。

中嶋 晶生（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

2025年10月より市立奈良病院より大学に戻って参りました、中嶋晶生です。市立奈良病院で学んだことを、これから大学での診療に生かしていきたいと思います。まだまだ未熟者ではございますが、日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



学会の報告

国際眼炎症学会のご報告

加瀬 諭 (奈良県立医科大学 眼科学教室 教授)

この度、6月25日から28日まで、ブラジルのリオデジャネイロで行われた国際眼炎症学会（IOIS）に参加して参りました。本会は昨年より北海道大学眼科時代に指導させていただいた渡辺医師の指導として参加することが決まっておりました。彼は、北海道大学眼科における眼内リンパ腫の生命予後、視力予後を解析し、5年生存率は既報と同程度、死亡例の死亡前視力は平均矯正視力で約（0.5）でした。眼内リンパ腫診療における眼科医の役割としては、最期まで視力を維持できるよう眼部の治療を継続することが重要であることを示唆しております。会長のダニエル・サントス先生は私の米国留学時代の同胞で、共に苦楽を共にしました。本会の会長を努めており、彼を祝福することができました。本会ではさらに、IOIS 2027 が日本、福岡で開催されることも決まりました。加瀬は眼炎症学会国際化推進ワーキンググループにも参加することになりましたので、次回のIOISが盛り上がるよう努めて参ります。



Retina Societyのご報告

加瀬 諭 (奈良県立医科大学 眼科学教室 教授)

この度、9月23日—25日に、米国シカゴで行われました、Retina Societyに参加して参りました。Retina Societyは北米を中心とする網膜専門医の会員制の会で、毎年1回学術集会が行われます。今回、加瀬は症例報告と臨床研究報告を行って参りました。前者は小学生の片眼に発生した陳旧性硝子体出血で、硝子体切除を行い網膜神経上皮腫という稀な眼内腫瘍が原因だったことを突き止めました。後者は手稲渓人会病院との共同研究で正常網膜における網膜構造解析を行い、加齢に伴い網膜が菲薄化し、近視では黄斑部は菲薄化しないことを示しました。発表は必ず時間内に収める事、質疑応答では質問の内容を瞬時に理解し（完全には内容を理解できていなかったとしても）、間髪入れずに返答することが重要であることを再認識しました。毎晩のように懇親会があり、Inverted ILM flap で有名な Dr Zofia と再会うできて、楽しいひと時を過ごすことができました。いずれ、奈良医大眼科の先生とも本会に参加したいと思っております。



眼腫瘍学会のご報告

辻中 大生 (奈良県立医科大学 眼科学教室 講師)

眼腫瘍学会とスープカレーの思い出

去る9月20日～21日にかけて札幌にて行われました眼腫瘍学会に参加させていただきました。ご存じの方も多いと思いますが、加瀬教授が会長を務められた学会（左図、挨拶をする加瀬教授）であり、奈良からも新田先生、西山先生がそれぞれ「長期寛解後に涙腺腫瘍として再発した胃原発 Mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) リンパ腫の一例」、「眼内転移時に原発巣再発を認めた中枢神経原発悪性リンパ腫の一例」を発表してくれました。

決して規模の大きな学会ではないものの、その熱気と討論の深さに思わず新田先生、西山先生、そして加瀬教授の雄姿を写真に収めるのを忘れてしまった次第です（苦笑）。おそらく奈良医大からは初めての参加＆演題であったと思われます。悪性リンパ腫がらみの発表はいくつかありましたが、本年4月から本格的に腫瘍外来を立ち上げたばかりとしては、それなりのインパクトを与えられたのではないかと思いました。

特別講演（右図）では、Yonsei University の Min Kim 先生が Vitreoretinal Surgery in Ocular Oncology と題して眼腫瘍における硝子体手術の経験をわかりやすく教えていただきました。通常の硝子体手術を見慣れた立場からは、強膜アプローチ、硝子体アプローチ共に刺激的な？動画の連続でとても勉強になりました。二人の立派な発表を見届けた後は、懇親会そして二次会で様々な大学の先生方と交流を深めさせていただき、腫瘍の奥深さと、腫瘍チームのあったかさを感じながら、札幌の夜は更けていきました。

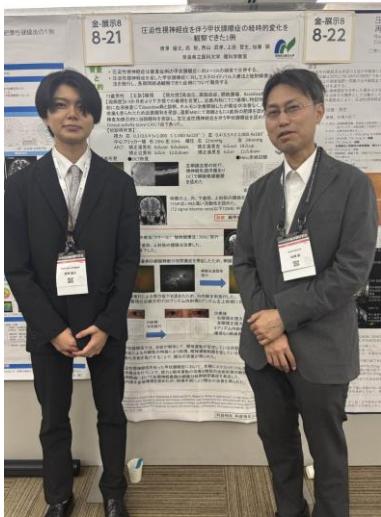


次の日、新千歳空港にてスープカレーを食べました。私が1辛のカレーを喜んで食べる横で、N田先生は15辛！（右図）（店員さんに二度「かなり辛くなりますが、本当によろしいでしょうか？」と聞かれました）のスープカレーを喜んで食べていました。新T先生の体調が心配です。誰か、彼を真っ当な道へ戻してあげてください！



日本臨床眼科学会のご報告

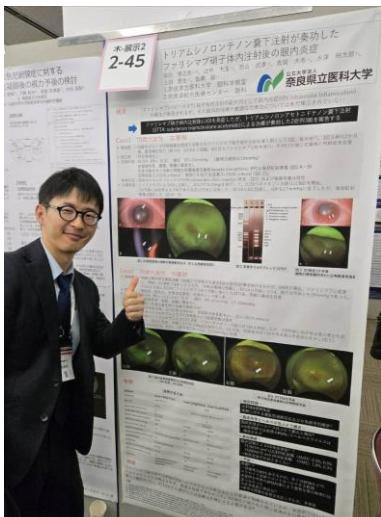
唐澤 優太 (奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員)



2025年10月に大阪国際会議場で開催された第79回日本臨床眼科学会にて、圧迫性視神経症を呈した甲状腺眼症に対し、ステロイドパルス療法と放射線療法を併用した治療の長期経過を詳細に検討した症例について、ポスター発表をさせていただきました。

今回の発表に至るまでには、日々の診療の場でご協力いただいた患者さんをはじめ、懇切丁寧にご指導くださった諸先生方には、心より深く感謝申し上げます。

今回の経験を通じて得られた知見や反省点を、今後の臨床に還元し、より質の高い医療を提供できるよう、一層精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



保田 慎之亮 (奈良県総合医療センター 眼科 医員)

この度、第79回日本臨床眼科学会にて「トリアムシノロンテノン嚢下注射が奏功したファリシマブ硝子体内注射後の眼内炎症」という症例報告をポスター発表させていただきました。学会発表という貴重な機会を得られましたことを、大変光栄に存じます。

加瀬諭教授、辻中大生先生をはじめとして、内容にご助言を頂いた医局の諸先生方に心より感謝を申し上げます。今後も臨床・研究ともに一層研鑽を積んでまいりたいと存じます。ありがとうございました。



水澤 裕太郎 (奈良県立医科大学 眼科学教室 助教)

10月の第79回日本臨床眼科学会で一般演題「光干渉断層血管撮影を用いた斜視手術前後の黄斑部血流変化」を発表して参りました。斜視手術後1か月の時点で、黄斑部の deep capillary plexus (DCP) において血流の増加が認められ、斜視手術に伴う前毛様体動脈の血流低下により、網膜循環に関与する眼動脈系の血流が代償的に増加した可能性が考えられる、というものです。これらの血流動態の変化が視機能や斜視の再発に影響を及ぼす可能性もあり、今後さらに検討を進めていく予定です。ご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。特に、忙しい中ご指導くださった西先生には、深く御礼申し上げます。次は沖縄とか札幌の学会で発表したいです。この写真かっこいいでしょ(^O^)v

専門医試験合格のご報告

井本 翔（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

このたび、第37回専門医試験に無事合格いたしました。

久しぶりに本格的に勉強に取り組むこととなり、仕事との両立に苦労する日々でしたが、多くの先生方にご指導・ご支援をいただき、なんとか乗り越えることができました。

今後は専門医としてさらに研鑽を積み、臨床・教育の両面で貢献していけるよう努めてまいります。

保田 慎之亮（奈良県総合医療センター 眼科 医員）

このたび、第37回専門医試験に合格することができました。

久しぶりの受験勉強で思っていた以上に大変でしたが、日々の診療や医局の仲間の支えに助けられながら、なんとか乗り切ることができました。今後も初心を忘れず、さらに学びを深め、後進の育成や医療の質向上にも貢献できるよう、引き続き研鑽を積んでまいりたいと考えております。

倉岡 大希（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

専門医試験に合格しました！！

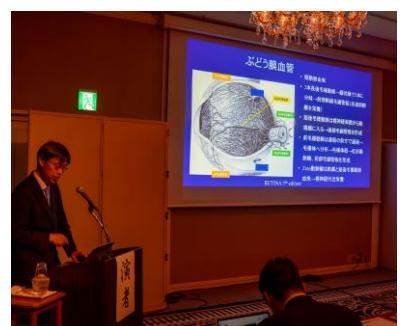
久しぶりに机に向かう生活となり、最初のうちは参考書を開くたびに睡魔との戦いででしたが、なんとか最後まで走り抜けることができました。支えてくださった先生方や仲間に感謝しつつ、これからも日々の診療の中で学び続けていきたいと思います。忙しい業務の中でも学習時間を確保できるよう配慮してくださった医局の先生方に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

夏の同窓会

2025年7月12日（土）にシェラトン都ホテル大阪にて奈良県立医科大学眼科勉強会が行われました。

教育講演として、今年4月に着任された加瀬教授に「眼底腫瘍のマネージメント」と題して、これから当教室が力を入れていく眼腫瘍について熱くご講演をいただきました。また特別講演として、順天堂大学 主任教授 中尾新太郎先生に黄斑下出血の病態と治療についてお話しいただきました。明日の臨床へ大いに役立つご講演をしていただき、誠にありがとうございました。

講演会後の懇親会では、加瀬新教授着任後初めての同窓会ということもあり、52名もの先生方にご参加いただき、いつも以上に賑やかに恒例のクイズダービーを行いました。今後も賑やかな同窓会が続くことを願っています。



論文の報告

平井 宏昌 (奈良県立医科大学 眼科学教室 助教)

Comparison of Clinical Characteristics Among Herpetic Retinitis: Acute Retinal Necrosis and Cytomegalovirus Retinitis.

Hirai H, Kuraoka D, Ueda T, Kase S.

Ocul Immunol Inflamm. 2025 Oct;33(8):1679-1687.

このたび、上記の論文が *Ocular Immunology and Inflammation* に掲載されました。

本研究では、2014年から2024年に奈良医大で診療した急性網膜壊死(ARN)およびサイトメガロウイルス網膜炎(CMVR)38例(53眼)を後方視的に検討し、炎症所見、視力予後、背景疾患による臨床像の違いを明らかにしました。ARNでは前房炎症と末梢病変が多く、初診時低視力群ではCMVRが有意に改善しました。またCMVRでは血液疾患や免疫抑制薬内服等の患者背景によって分類が可能であることを示しました。本研究の遂行にあたり、ご指導とご助言を賜りました加瀬教授をはじめ、諸先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。研究の各段階で頂いた意見や温かいご支援により、本研究を無事にまとめることができました。ご協力くださった皆様に改めて御礼申し上げます。

平井 宏昌 (奈良県立医科大学 眼科学教室 助教)

A Pilot Study on Structural Changes of Choroidal Vasculature Following Intravitreal Anti-VEGF Injection in Neovascular Age-Related Macular Degeneration: Faricimab vs Ranibizumab.

Nishiyama T, Hirai H, Miyata K, Nishi T, Ueda T, Kase S.

J Clin Med. 2025 Oct 14;14(20):7257

今回、加齢黄斑変性(nAMD)治療における脈絡膜の変化を調べた研究論文、“A Pilot Study on Structural Changes of Choroidal Vasculature Following Intravitreal Anti-VEGF Injection in Neovascular Age-Related Macular Degeneration: Faricimab vs Ranibizumab”が *Journal of Clinical Medicine* に掲載されました。今回の研究では、ファリシマブもしくはラニビズマブにて初回導入治療が施行されたnAMD患者さんに対し、OCT画像における脈絡膜全体面積に対する血管が占める割合(L/C比)の経時的变化を比較しました。その結果、ラニビズマブ投与群では有意差がなかった一方で、ファリシマブ投与群では3回投与後この比率が有意に下がり、特に1型黄斑新生血管症(MNV)での傾向が強いことが分かりました。これは、ファリシマブがVEGFとAng-2を同時に抑えることで脈絡膜血管により強く作用している可能性を示すものであり、今後さらに症例数を増やした研究を検討しています。ご指導頂きました加瀬教授、西先生、上田先生、データ収集にご協力頂きました西山先生、宮田先生に心からお礼申し上げます。

西 智 (奈良県立医科大学 眼科学教室 講師)

The ocular shape and retinal structure in children with a history of treated retinopathy of prematurity.

Nishi T, Mizusawa Y, Terasaki H, Sakamoto T, Ogata N, Ueda T.

Sci Rep. 2025 Aug 9;15(1):29229.

今回の研究では、広角光干渉断層計(SS-OCT)画像を用いて、後眼部眼球形状を2次関数で評価しました。対象は、ROPに対する網膜光凝固治療の既往があり、SS-OCTの撮影ができた小児34例34眼。自然軽快眼5例5眼、健常小児眼15例15眼と後眼部眼球形状を2次関数で表現したOSI(Ocular Shape Index)をImageJにより定量化することで数値化し、比較検討することができました。平均OSIは、治療群で有意に小さく、小さいOSIは、眼球形状がdome-shaped maculaに近いことや樽状に伸展した形態を示していました。治療眼は健常眼と比較してdome-shaped maculaや、樽状に伸展した形態を示す傾向が大きいことがわかりました。今回の研究により、網膜光凝固術を施行した未熟児網膜症既往小児眼の後眼部眼球形状は、健常小児眼と異なることが、2次関数を用いて数値化することで明らかになりました。

本研究に関しましてご指導を頂きました諸先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	西	上田	藤原	加瀬	西 小児眼科 (第2・4週)
	午後	小児・神経眼科 (担当:西)	網膜硝子体 (担当:上田)	第1・3週 緑内障(担当:宮田)	眼腫瘍・網膜硝子体 (担当:加瀬)	西 ロービジョン外来 (第2・4週)
2診	午前	藤原	水澤	西山	辻中	辻中
	午後	網膜硝子体 (担当:藤原)	網膜硝子体 (担当:水澤)	手術日	角膜・眼腫瘍・網膜 (担当:辻中)	手術日
3診	午前	倉岡	平井	丸岡 (第1週)	小林(第1・3・5) 峯(第2・4)	
	午後	倉岡	網膜・ぶどう膜 (担当:平井)	第3・5週 角膜(担当:丸岡)		
4診	午前	井本	中尾 (第1・3週)		中嶋(竹内)	
	午後	井本	小児・眼腫瘍 (担当:西山)		中嶋	
5診	午前	名和	森本		西山	
	午後	名和	森本		小児・眼腫瘍 (担当:西山)	
6診	午前	松浦	吉田		新田	
	午後	松浦	吉田		新田	

- 専門外来は完全予約制です。
- 初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- 地域連携の予約は月・火・木が8名、水・金は3名可能となっております。
- 緊急の患者さんの紹介につきましては、あらかじめ眼科外来までご一報くだされば、臨時対応させていただきます。

(患者さんに関するお問い合わせ先)

奈良県立医科大学附属病院 眼科外来受付 TEL:0744-22-3051 (代表)

編集後記



平素より奈良県立医科大学眼科学教室の運営に多大なお力添えを賜り、心より御礼申し上げます。

おかげさまで、ニュースレターは今回で第30号という節目を迎えることができました。これもひとえに、同窓会の皆様からの温かいご支援とご協力の賜物であり、教室一同、深く感謝申し上げます。

ニュースレターでは今後も同窓会の諸先生方からのご投稿を広く歓迎しております。日々のご活躍や近況など、どのような内容でも構いませんので、ぜひお気軽にお寄せいただければ幸いです。

tomon@naramed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 西 智